

開発途上国の  
母子を支援!

# ユニセフ ミャンマー スタディツアー参加報告

3年ごとに実施される当ツアーも今年で9回目。現在の支援先であるミャンマーはどんな状況なのか、組合員目線で見た今の姿をお伝えします。

今日はユニセフミャンマースタディツアーに参加した小畑さんに来てもらったワーン!

小畑さん、ユニセフミャンマースタディツアーってなんですか?

組合員から集められたユニセフ募金の支援成果を視察するツアーです!

こんにちは!

舞鶴市の組合員  
おはた ちえ  
小畑 千恵さん

そして2019年は、指定募金先のミャンマーへ私が視察へ行ってきました!

2/17~23

これまでも8人の組合員代表が参加してくれただワーン!

ミャンマーは、アジアの中で子どもの栄養状態が特に悪く5歳未満児死亡率がとても高い国。京都生協はミャンマーを指定募金先とした「ミャンマーの女性と子どものための栄養支援プログラム」を支援しています。

京都生協とユニセフには約40年前からの長いお付き合いがあります

- 1979 日本の生協がユニセフの「バケツ1杯の水を送ろう」プロジェクトに参加
- 1989 京都生協が組合員に呼びかけ「ユニセフお年玉募金」を開始
- 1990 指定募金制度※に参加、ラオスへの指定募金を開始  
※日本ユニセフ協会と協議して特定のプロジェクトを指定できる制度
- 2016 指定募金先をミャンマーに変更

ずっと支援を続けているんだワーン

みんなも小畑さんが見てきたミャンマーの様子を知って、これからもユニセフ活動に協力してほしいんだワーン!

お願ひします!

ミャンマーの現状を見て、いろいろなことを考えさせられました...

そなんや!

詳細は7ページ

テレビでユニセフのCMが流れたら、気になるようになったよ!

すべての子どもに明るい未来を



ユニセフ ミャンマースタディツアーレポート

## ユニセフの取り組みを視察しました

今回の視察先は、ユニセフ募金が活用されている地域のひとつ、農村地区のカレン州パアン。保健局や病院を中心とした視察の話を、小畑さんにお伺いしました。

京都生協が組合員とともに取り組む「ユニセフお年玉募金」は「ミャンマーの女性と子どものための栄養支援プログラム」に使われ、以下の4つの取り組みを中心に活用されています。



### 医療従事者の育成

質の高い栄養指導を行う保健員などの医療従事者を育成し、これまでに4,000人を超える医療従事者に研修が行われました。

子どもたちの状態は少しずつ良くなっていますが、まだまだ現場は人手不足です。

▲ラインプウ保健センターでの定期健診。子どもたちの腕の太さで栄養状態を判断する「命のメジャー」の登場以来、栄養失調の子どもの発見率が上がりました

### 栄養サプリメントの配布

微量栄養素を乳幼児と妊娠中・授乳中の女性に配布します。また、すべての子どもたちにビタミンA剤を投与して健康維持に役立っています。

▼小畑さんや他のツアー参加者もビタミンA剤の投与を体験しました

▲赤いカプセルがビタミンA剤。ハサミで先を切って、直接口へ投与します

### 栄養強化ミルクを提供

「命のメジャー」で赤色判定になった子ども（急性栄養不良児）には「栄養強化ミルク」を与えます。これまで30の病院へ栄養強化ミルクを提供しました。

▲コーカレイ郡立病院の子どもベッドはほぼ満床。付き添いの大人には長椅子1つしかなく、日本の病院とは全く異なる環境

▲マイチャイ君（生後9か月）は、栄養強化ミルクで命をつないだ子のひとり。栄養失調による合併症を引き起こしており、今後も入院が必要です

### 意識改善に向けた広報活動

ユニセフでは物的支援だけでなく、栄養・衛生環境改善に向けた意識・行動向上のための広報活動を行っています。生後6か月間の母乳育児推進や、子どもたちへの衛生面に関する理解を広げるため、分かりやすい配布物や掲示物などの制作にも募金が活用されています。

▲お母さんたちに栄養のある離乳食の与え方を伝える広報物

▲ナウファードー小学校では手洗いの重要性をイラスト入りで伝える掲示物が。おかげで下痢になる子どもが減少しました

## ユニセフ ミャンマースタディツアーに参加して

生協の学習会などでユニセフの活動は知っていたけれど、実際はどうか自分の目で確かめたいと思ったのが参加のきっかけです。複数の保健局や病院視察を通じて、「人」の大切さを強く感じたと同時に、現地スタッフの大変さや人手不足の現状を痛感しました。また、農村と都市部の貧富格差や平和問題など、複雑に絡み合う問題の根本解決には、教育の普及が重要だと感じました。しかし、ユニセフ指定募金の支援はまだ、隔々まで行き渡っていないのが現状。まだまだ解決しなければならない問題はたくさんありますが、まずはミャンマーの現状に目を向け、共感し「自分には何ができるだろう?」と考えていただくことが支援の第1歩になると思います。



お知らせ

## ユニセフ ミャンマースタディツアー参加報告を聞いてみませんか?

平和やユニセフをテーマに、地域での学習会やイベントに伺います。小畑さんから直接、現地の視察報告を聞くこともできます。

問い合わせ  
両丹ブロック事務局  
☎0120-075-262  
9:00~16:00(土日休)